

推薦する取り組み

園館名

ゴイサギのための採食エンリッチメント水槽

長野市城山動物園

推薦理由

対象のゴイサギ 1 羽は、底面が直径 13mの円型鳥舎で他種の 7 羽の鳥類と一緒に飼育されており、日中は鳥舎内の物陰にすることが多い。エンリッチメント開始前の主食は定位置真上のバットに入った冷凍アジである。主に閉園後の日没以降に行動するため、来園者に活動の様子を見てもらうことは難しかった。

ゴイサギの採餌環境を自然なものに近づけるために、園にもともと保管されていた水槽と台を、定位置から直線距離で 10.3m 離れた場所に設置し、生き餌を入れた。水槽内は水辺を模し、植物、自然木等を配置した。ただし、食事量を確保するために冷凍アジは引き続きバットで与えた。なお、生き餌は園内の池から調達した。設置から 12 日後の開園中の夕方、水槽に近づく様子が見られ、17 日後に水槽内に入り、全ての生き餌(フナ 6 尾、ドジョウ 2 尾)を完食した。その後、生き餌は随時補充してもらった。慣れてくると日常的に、開園中でも水槽へ向かうようになり、冷凍アジを残す日も出てきた。食事のメインが従来のアジから生き餌に移りつつあると思われた。水槽設置以前の足場はコンクリートのみだったが、水槽設置により、水槽内の水溜まりや泥部分に立って捕食する様子や、度々水槽を覗き込む様子、餌場に移動している時間の増加が見られた。また、採食中のコサギに観察される「足ゆすり(水を動かして魚をおびき出す)」に似た動きが見られた。国内でのゴイサギの足ゆすりについての観察記録は見当たらず、今後も注視していきたい。なお、生き餌の入った水槽を設置したことで、来園者に対しても今まで以上の興味を喚起でき、来園者は比較的長い時間鳥舎の前で立ち止まり、内部を観察することが多くなった。

以上により、今回の『採食エンリッチメント水槽』が、ゴイサギの活動の場を増やし、新しい行動を引き出し、採食行動を自然の状態に近づけることに貢献したと考えられる。



←ドジョウを捕らえたゴイサギ



←水槽へ入るゴイサギ



←生き餌を狙うゴイサギ



←鳥舎内の様子



←来園者側の目線
(ゴイサギは水槽左上)